

成人向  
Adult Only





日本のとある場所、N市では最近、奇妙な噂が広まっていた。曰く、魔法少女と名乗る者達が競うように人助けをしているというものである。

ある者は火の手の上がる火災現場から命を救われ

またある者は夢の中で怖い怪獣を倒して悪夢を防いでくれたりとその内容も規模も千差万別

しかしそんな無数の魔法少女の中、一人だけ際立って話題にあがる者がいた

その少女は夜な夜なキャンディを求めて報われない童貞達を解放して回っていると

人助けの回数がずば抜けていたというのも理由の一つではあるが最初に噂されてから暫く経った頃耳を疑うような話が囁かれ始める

しかし、彼女が何故そんな事をしているのかは誰も理由を知らない――







—はあ…



42歳にもなるのに  
未だに万年平社員

数年前に入社した新人は  
すでに私を超え、上司になり  
毎日年下に頭を下げる日々

いつの間にか私の席は  
窓際に移動させられ  
リストラ最有力候補

私の悪口を  
これ見よがしに話す  
周りの声に耐えながら  
必死に会社にしがみ  
付いている



私の人生…どうして  
こう上手くいかない  
んでしょうね…



妻や子供でもいれば  
気も紛れたかもしれぬが  
残念ながら縁に恵まれる  
事はなかった

…ただいま

だというのに家があれはと  
結婚出来るのではないかと  
ローンで一軒家を購入して  
しまうのだから  
もう救いようがない

誰もいない真つ暗な  
廊下に向かつて  
返るはずのない  
帰宅の言葉を繰り返す

こんばんは  
おじさま ♡

いつその事、死んでしまえば  
楽になれるだろうか？  
そんな事を日々頭に浮かべ  
疲れ果てていた、ある日の夜

私は彼女たちにした  
出会ったのだった

きっと死ぬまでこうなのだろう  
家族どころか女性と関わる事もなく  
一人寂しく死ぬ——それが自分の未来

突然、すみません  
少しだけ…わたし達の話を  
聞いてくれませんか？



スノーホワイト……っ  
やっぱりこんな事して  
まで……きつと何か  
他に方法が——

無理だよ、ラ・ピュセル……  
この辺りのキャンディは  
皆、他の……だから  
もうこの方法でしか  
大量に——

こゆ……っ  
入れ過ぎ！  
入れ……あひい！

だからって……っ  
ひやわあう！

ラ・ピュセル  
初めてなんだから  
しつかり濡らさないと  
……わたしに任せて、ね？

うう……  
でも……うわっ！  
な、なかにっ！  
ゆ、指が……  
あうううんっ！

さつきは白い子の妙に  
必死な様子に、つい訳も  
分からないまま  
頷いてしまったが……

お願いします！  
わたし達を助けると思って  
おじさまの大事な童貞……  
わたし達に下さい！！

おじさまって……  
女性経験あり  
ませんよね！

は！？

何なのだろうか  
この状況は……？

くちゅ  
くちゅ

くちゅ

くちゅ



これは：よく考えなくとも  
援助交際：ですよね  
バレたら会社をクビ：  
社会からも後ろ指を  
指されてブタ箱行き：

ズ  
ー  
ン

…じ…まっ  
おじさま！

そもそもこんな加齢臭の  
する中年男の所に  
こんな可愛い娘達が  
声を掛けてくれる事が  
おかしい…きつと近くに  
怖い人達が…

準備出来ました  
先にラ・ピュセルから  
お願いします♡

…あれ？

もちろん、その後は  
わたしも…♡

あ…わたし達じゃ  
おじさまの相手に  
不足だったでしょう  
か？

い…いや！いやいやっ  
そうじゃないんだ！





ホッ  
ホッ  
ホッ

ただ…ねえ？

私のような冴えない中年に  
どうして君達みたいな娘が  
こんな事をしてくれるのか  
分からないんだ…



だからここまでして  
もらって悪いけど…  
帰ってもらえるかな？

スノーホワイト…  
おじさんもこう  
言ってるし  
今回は帰ろう？



たとえ嘘や冗談でも  
こんな冴えない男に  
声を掛けてくれて  
ありがと…

だけどこれでいいんだ…  
この年になっても子供も  
いない。それどころか  
女性経験すらない中年男…



そんなダメ男と過ちなんか  
犯すべきじゃないんだ…  
…こんな事だから未だに  
童貞なんだろうな…  
意気地がないというか  
なんと…はあ

おじさまの優しい  
けれど救いを求める  
心の声か—

聞こえる…



さあ、もう夜も遅い  
タクシー代なら  
出してあげる  
から――



ん...ん



ん...ん



ありがとうございます  
おじさま…

わたし達の事を  
本気で心配してくれて…  
凄く嬉しかったです♥

ドキ  
ドキ

スノー…  
ホワイトちゃん？

詳しい事情は  
話せないですけど…  
これは自分で決めた事  
なんです。だから…

んう……っ!?  
し、しかし君達は  
まだ未成年だろう!

未来ある若者の  
未来を私みたい  
な……んんっ!?

その未来の為に  
必要な事なんです

お願いします  
おじさま…

言っている内容は  
要領を得なかったが  
話している彼女の顔は  
とても真剣で…  
とても辛そうに見えた

だから私は…  
彼女達の頼みを  
断る事が出来な  
かった

…分かった  
本当に私なんかで  
いいのなら――

それで……  
悪いんだけど  
愚息を元気にして  
貰えるかな?

勃たないように  
頑張っていたら  
本当に勃たなく  
なってしまうってね…

そっつ、  
ならお願い  
あるね♥

はいっ  
任せます♥

それは…僕が  
僕がやるから!

ま、待って!

スノーホワイトに  
ばかり嫌な事を  
押し付ける訳には  
いかない…ッ



スノーホワイト：  
小雪は僕が気付いた時には  
キャンディを集めるために  
自分の身体を使うように  
なっていた！

確かにそうでもしないと  
キャンディの数を揃えるのが  
難しくなってきた  
他の魔法少女も生き残るのに  
必死だからだろう！

でも：俺がもつと彼女に  
気を配っていたら：  
こんな事をさせずに  
済んでいたかもしれない

そう思ったなら口が  
勝手に僕もやると  
言ってしまった

せめて彼女の負担を  
少しでも減らす：  
それが今の僕に出来る  
唯一の贖罪だ

う：自分の  
見慣れてるから  
大丈夫かと思った  
けど！

他人のだと  
想像以上に：  
気持ち悪いな

とりあえず自分で  
やるみたいにか  
すればいいか！

ほら、おっさん！  
とつとつイっちゃまえっ

痛っ!?



ラ・ピュセルちゃん…  
すまないが、もう少し  
優しくして貰えると  
嬉しいのだが…

すみませんっ  
気を付けます！

ラ・ピュセル、大丈夫？  
やっぱり、わたしが  
しようか？

いいや！  
大丈夫だから！

痛くならない…  
もっと優しく…柔ら  
かく…

—とは言ったものの…  
よく考えたら他人の  
ちんこを擦る力加減なんか  
分かるわけないよな…

かといって、このままだと  
小雪がまた…いや！それは  
駄目だ！僕が頑張らないとっ

あ！！

ぎゅっ



子供の頃から  
憧れていた  
魔法少女…

初めてラ・ビュセルの姿に  
なった時。戸惑いよりも  
魔法少女になれた嬉しさの  
方が大きかった

そんな魔法少女…  
女の子の証のような  
この胸をおっさんの  
ちんこなんかには  
使いたくないけど…

頑張らなきゃ  
正義の味方じゃない！

スノーホワイトも  
頑張ってるんだっ  
だったら僕も—





うわ…っ  
ツバ垂らしたら  
大きくなった!?

思ったより  
滑りが悪いな…  
汚いけどツバで  
滑らせよう

というかコレ…  
どんだん熱く  
なってきたる…  
それに匂いも濃く…



ツバで興奮する  
なんて変態かよ…

—っって  
変な声出すなよ  
気持ち悪い!



なんだよあの顔…  
僕のおっぱいなんかで  
あんな気持ちよさそうに  
しちゃってさ…

いっしょ

そんな…そんな顔  
されたら…  
もつとしてあげたく  
なる—

い、いや、違う！  
これは…そうっ  
人助けなんだよ！

だから…コレを  
舐める事ぐらい…

魔法少女が人助けを  
するのは当たり前  
だから…

ふ、ふふふ…  
ほ、ほあ、い、ほ…？

はい  
そこまで♡

それ以上は  
少し待ってね♡

おじさまの年代だと  
何回も出来ないの  
だから射精して貰う  
なら…こっちでね♡

射精寸前のピキピキで  
ガチガチなおちんぼを

ラ・デュセルの  
とろとろ処女  
おまんこに…♡





あ、あの……「」まで  
して貰って置いて  
何だけど、本当に  
挿入れて良いのかい？

はい♥  
でもラ・ピュセルは  
初めてなので優しく  
してあげて下さい♥

……ああ  
分かった

じゃあ  
入れる……よう

ピクッ  
ピクッ  
ピクッ



アッ

フワッ

フワッ

ピクッ  
ピクッ

みち













ありがとう  
ラ・ピュセルちゃんっ  
君みたいな可愛い子で  
童貞を捨てられた！

ただそれだけで  
灰色だった私の人生が  
報われた気分だよ！！



ラ・ピュセル  
凄いなあ...

そんな声聞かされたら  
わたしもして貰いたく  
なっちゃうよお♡

あの...おじさま  
わたしもー

初めてなのに  
あんなに気持ち良さ  
そうな声だして...



スノーホワイト  
ちゃんっ、おじさんの  
具合はどうかなっ  
気持ちよく出来て  
るか…い！

なら良かった…よ！  
ラ・ピュセルちゃんも  
すぐに入れ直して  
あげるからね！

は、はいっ♡  
おじさまのちんぽ  
硬くて熱くて…

とっっても…あんなっ  
気持ち良いです♡

ラ・ピュセル  
ごめんね…んっ  
おじさまのちんぽ  
借りちゃって…あん

べ、別に  
そんなの欲しく  
な…んっ

でも、おじさまの  
初出しザーメンは  
ラ・ピュセルにあげる  
から安心してね♡

お腹の奥が  
フワフワってして  
幸せな気分にな  
るの♡

え…  
いや…

んっ…腫出して  
すっごく気持ち  
良いんだよ♡

へ、へ…  
そ、そう  
なんだ…あっ♡



こ、今度は  
ラ・ピュセル  
ちゃんにっ

こうして二人交互に  
試みて初めて  
女性器に違いが  
あるのが分かるよっ

ラ・ピュセルちゃんは  
入口から奥までギツギツで  
チンコが干切れそうな  
ぐらい締め上げてくる！

スノーホワイトちゃんは  
入口が小さくてキツいけど  
膣内はふわとろで腰が  
砕けそうになるぐらい  
気持ち良いよ！









くっ…そろそろ  
限界だっ



スノーホワイトちゃんっ  
君は…君たちは天使だ!



お言葉に甘えて  
射精させて貰いませう



はは  
はいっ

おじさまの精液  
わたし達に射精して  
くださいっ



ス、スノーホワイト  
怖い…怖いよ…ッ

お腹の奥が自分の  
物じゃないみたい  
に熱くて変な気持ち  
がこみ上がってき  
て…ッ

大丈夫だよ  
ソシに逆らわない  
一筋に気持ち固  
まろうっ



あまの

おじさまちたあ  
奥がガンガン  
ノックしてこの

おじさまちたあ  
奥がガンガン  
ノックしてこの

おじさまちたあ

42歳熟成ゲーム  
本当に射撃す  
からなっ!!

やだッ  
やだああッ

頭バカになるうう  
ううううッ

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの





射精後、童貞卒業と  
人生初の膣出しに  
興奮しすぎたのか  
疲れて気を失うように  
眠ってしまったのだった…





人生最良の日の翌朝



彼女達の痕跡がどこかに残されていないかと周囲を探した



すると居間のテーブルの上にラップに包まれた朝食と共に一枚のメモが置いてあるのを発見した

メモには私への励ましの言葉と何故か昨夜の礼が書かれていた



ベッドから目覚めると彼女達の姿は影も形もなかった

一瞬、昨日の出来事は私の夢か妄想だったのではないかと疑ってしまった



そこには短いけれど彼女達の優しさの溢れた言葉が書かれていた  
その言葉を読み終わると久しく流す事のなかった涙が溢れて止まらなかった  
結局その日以来、彼女達と再び出会う事はなかったがあの夢のような夜と少し焦げた目玉焼きの味の記憶のお陰で灰色だった私の日常が少しだけ色付いて見えるようになった  
だからもし、もう一度出会う事が出来たら：感謝の言葉を伝えたい  
こんな私を受け入れてくれてありがとう、と――

~FIN~



発行日 2016年 12月31日  
発行者 かめぼてる  
作画 戌月ジロウ  
連絡先 kamepotel@gmail.com  
ホームページ <http://kamepotel.blog113.fc2.com/>  
印刷所 (有)ねこのしっぽ

- ※ 本誌は十八歳未満の方への販売・閲覧をご遠慮させて頂いています。
- ※ 本誌掲載の記事、図版・図柄等の無断転載、複写等の行為は禁止しています。又、本誌のインターネット上へのアップロードも禁止させて頂いています。
- ※ 無断でネットにUPするのは窃盗と同じです。軽い気持ちでする、その行為は作者に多大な迷惑が掛かります。もし発見した場合、適切な対処を取らせて貰う事があります。御注意ください。